

表面被覆工 九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

令和4年9月現在

 工法比較対象技術
 新規対象技術(調査中)
 削除技術

※「活用状況(本省)」欄にNETIS掲載期間内の大まかな活用件数を記す。☆=500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上

(注)NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理番号	技術名	NETIS番号	A V G	アブストラクト	区分	分類 Lv.1	分類 Lv.2	分類 Lv.3	分類 Lv.4	技術の位置づけ	活用 効果 評価	活用 状況 (本省)	掲載期間 終了技術 (終了時期)	生産供給体制(機械保有台数等)	備考	NETIS HP リンク先(注)
1	「NAV工法」・「NAV-G工法」・「NAV-G工法(UV仕様)」	KT-100023	VG	本技術は、対策後もコンクリート表面の既存ひび割れの進展状況や新たなひび割れ発生等を目視観察できる剥落防止工法である。変状の目視観察による追加対策の必要を判断でき、透明な耐候性塗料を使用することで紫外線の影響を受ける明かり部へも適用できる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他		[活用促進] (2017.3.31~)	有	○ (R3年3月)				
2	ダイナミックレジン タフレジンME-A工法	TH-100027	VG	ダイナミックレジン タフレジンME-A工法は、コンクリート構造物の経年劣化によるコンクリート片の落下を、エポキシ樹脂ではなく、強靱なウレタン樹脂塗膜により防止するもので、かつ連続繊維シートを必要としない、施工性に優れたはく落防止工法。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[活用促進(旧)] (2015.4.1~)	有	○ (R3年3月)				
3	ボンドKEEPメンテ工法VM-3	SK-110012	VR	本技術は、変性ポリウレタン樹脂による柔軟性に富み、広い施工可能温度領域を有するコンクリート片はく落対策工法である。従来は、当該箇所をハツリ撤去後、モルタル等で断面復旧していた。本技術では下地のひび割れや変形に追従性を確保し、通年での施工が可能となった。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		[活用促進] (2016.8.18~)	有					https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=SK-110012%20
4	クリアクロス工法	KT-110052	VR	本技術は、含浸により透明になる特殊ピニロンクロスを用いたコンクリートはく落防止工法で、従来ははつり工+モルタル復旧工で対応していた。本技術の活用により、はつり作業が不要となり、産業廃棄物が低減し騒音発生がなく、経済性の向上、周辺環境への影響抑制となる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		[活用促進] (2016.8.18~)	有					https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-110052%20
5	ハイブリッド形表面被覆材アロンブルコートZ-X、Z-Y工法	CB-120013	VR	従来主流のコンクリート表面保護工は、エポキシ樹脂系材料であるが紫外線劣化により割れ剥がれが多く発生している。本工法は、コスト縮減・工期短縮・品質向上・施工性等に着目し開発した材料(セメント系無機質硬化材を主とし、アクリルゴムを混合)を用いる新工法である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[活用促進] (2016.8.18~)	有					https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CB-120013%20
6	超薄膜スケルトンはく落防犯コーティング	CG-120025	VE	本技術は、透明コーティング材とガラス繊維による塗布接着型シート工法で、コンクリート構造物のはく落対策工事や劣化因子の対策工事に適している。施工後の表面異常が目視により確認できる。塗膜の超薄膜化によってコーティング材の使用量を抑え経済性の向上を果たした。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		[活用促進] (2019.11.14~)	有					https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-120025%20
7	TSコンクリート剥落防止・補強工法	KT-120049	VR	本技術は、水溶性特殊カチオン樹脂アラミド繊維入りモルタルとアラミド3軸繊維を複合使用した表面劣化・剥落防止工法で、従来はポリマーモルタル補修工で対応していた。本技術の活用により、付着力が改善され、引張強度、耐摩耗性が向上するため、品質が向上する。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工			有					https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-120049%20
8	省工程はく落防止工法「レジガードSD工法」	KT-120079	VR	本技術はコンクリート構造物に対し、ボンド材、ピニロンまたはナイロンシート、上塗塗料を使用するはく落防止工法で、従来はガラス繊維シートによるはく落防止工法で対応していた。本技術の活用により施工環境に応じた適材適所の塗装仕様を組めるため、施工性が向上する。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有					https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-120079%20
9	ワンステップガード工法	KT-120082	VR	本技術は、特殊有機繊維を混合したアクリル樹脂を塗布する方式のコンクリート片はく落防止対策工法で、従来は繊維シート接着工法で対応していた。本技術の活用により、シート接着工程が削減できるので、工程の短縮、経済性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[活用促進] (2019.9.19~)	有					https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-120082%20
10	ShieM-CS工法 Bタイプ	CG-140001	VR	本技術はコンクリート構造物の劣化防止を目的とした表面被覆工法で、バリア層を有する多層構造で形成されたシートをコンクリートに貼り付けることで、中性化・塩害・はく落の防止が可能となる工法である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有					https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-140001%20
11	タフガードスマートBeメッシュ工法	KT-150051	VR	本技術はコンクリート構造物のはく落を防止する工法で、従来は、ガラス繊維シートによるはく落防止工法で対応していました。本技術の活用により、変形追従性やひび割れ含浸性が向上するため、はく落防止性や耐久性の向上が図れます。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有					https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-150051%20
12	コンクリート剥落防止塗装 ペイントガードCV	KT-150090	VR	本技術は、アクリルエマルジョンにピニロン繊維及び特殊繊維を配合した塗料を塗布する方式のコンクリート片剥落防止対策工法です。従来は、剥落防止工(アラミドメッシュ)で対応していた。本技術の活用により、接着工程の削減が可能で、施工性や経済性の向上が図れます。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有					https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-150090%20
13	無機接着剤使用の剥落防止工法	KT-160123	VR	本工法は、無機接着剤と繊維シートを複合使用した剥落防止工法で、従来は、ポリマーモルタル補修工法対応。本技術の活用により施工後の可視化可能で下地コンクリート・繊維シートの挙動監視が容易となり、後々のメンテナンスが容易になると共に安全・経済性向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工			有					https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160123%20
14	ダイナミックレジン ストロンガード工法	KT-160153	VR	本技術は有機系繊維シートを用いて、橋梁やトンネルなどのコンクリート片のはく落を抑制・防止する工法であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、不陸修正工や中塗り塗布工等が削減され、工程の短縮となるため、経済性の向上が図れます。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工			有					https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160153%20
15	タフガードクリヤー工法	KT-170015	A	本技術は、コンクリート構造物に保護性能を付与すると共に、透明塗膜により視認性を確保する工法です。従来は、エナメル塗膜(有色)による表面保護工法で対応していた。本技術の活用により、目視での簡便かつ正確な調査ができるため、維持管理性の向上が図れます。	材料	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-170015%20
16	ショーボンドハイブリッドシート工法	TH-010017	VG	本技術は、予め工場で作製された特殊ラミネートシートを現場で一層貼り付ける工法で、従来工法の現場積層型の工法に比べて施工工程の削減と品質の向上等を実現しました。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		[設計比較] [活用促進]	有	◎ (H29年5月)				
17	タフガードQ-R工法	KK-040054	VG	中塗りの強靱な塗膜特性及び塗装システムの速硬性により、従来の補強材工程の省略を可能にし、大幅な工期短縮とそれに伴う工事コスト低減を実現しました。また、無溶剤系の中塗り設計によりコテ塗りを可能とし施工性と環境へ配慮しました。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[設計比較] [活用促進]	有	◎ (H29年5月)				
18	高分子系浸透性防水材 アイゾールEX	CB-030003	VG	撥水効果・コンクリートの表面改質効果を併せ持つ表面被覆材(透湿性を有する水性一液型塗料)が、コンクリートの劣化を抑制する。	材料	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[H24準推奨] [設計比較] [活用促進]	有	○ (H29年5月)				
19	SQSシステム工法レジテクトCVスプレー工法	CB-980104	VG	本技術は、超速硬化するポリウレタン系材料を構造物に機械吹付けし、防水膜・保護膜を形成する工法である。本技術により、複雑な形状、埋戻等の土圧等により困難な部位でも信頼性の高い防水効果・表面保護効果及び優れた耐久性が期待できる。	材料	共同溝	共同溝工(現場打ち)	防水工			有	○ (H29年5月)		専用吹付機 全国で250台以上		
20	ONR工法	KT-990214	VG	本技術はコンクリート構造物に対する断面修復および表面被覆工法で、従来は合成樹脂系塗装工法で対応していた。本技術の活用により、品質の向上が期待できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有	□ (H29年5月)				
21	二方向アラミドシート補修・補強工法	CB-000024	VG	二方向アラミドシート工法は、わが国で250件程度の施工実績があり、構造物の耐力の向上を図るとともに疲労による劣化を抑制し、構造物の寿命を延命させることができます。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		[活用促進]	有	□ (H29年5月)				
22	ONR工法(はく落防止仕様)	KT-070087	VG	本技術はコンクリート構造物のはく落防止工法である。従来はピニロン繊維とエポキシ樹脂を用いたシート工法で対応していた。本技術の活用により、コンクリートのはく落防止に対する安全性が向上するほか、ひび割れ追従性、中性化および塩害の抑制が期待できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有	□ (H30年5月)				
23	Watercoat(ウォーターコート)	KK-180047	A	本技術は自然界にある約10種類の鉱物を加工した特殊セラミックの性質特徴を活用し水を電気分解し外壁等の表面の凸凹に電気メッキの原理で被膜を作るコーティング技術であり、従来は洗浄を行っていた。本技術の活用により、ライフサイクルコスト削減、品質向上が期待できる。	工法	道路維持修繕工	道路清掃工	標識清掃工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-180047%20
24	光触媒塗料「オブティマスホワイトペイント」(遮熱・断熱・空気清浄化)	KK-180049	A	本技術は光触媒の親水性に加えて、有機物分解機能による空気清浄機能を有した汚れにくい内・外装用塗料製品の技術であり、従来はシリコーン樹脂塗料(2級)であった。本技術の活用により品質の向上、地球環境への影響抑制が期待できる。	材料	建築	塗装工事									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-180049%20
25	ボンドVMネットレス工法	KK-180053	A	申請技術は繊維シートの不要なコンクリート片はく落防止工法の技術であり、従来はピニロンシートを用いたはく落防止工法を使用していた。本技術の活用により、経済性・施工性の向上、工程の短縮が期待できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-180053%20
26	トンネルはく落対策工「ハードメッシュ」	KT-190006	A	本技術は、高剛性の難燃性炭素繊維製グリッドとガラスメッシュを一体化したネット系のトンネルはく落対策工法で、従来は、はつり落し工や断面修復工等の補修工法で対応していた。本技術の活用により、施工面全体のはく落防止が可能となるため、安全性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190006%20
27	ポリマーセメント系表面被覆工法「UBELレジスト工法」	TH-190006	A	本技術は、コンクリート構造物の表面部から塩化物イオンや炭酸ガス、水、酸素などの侵入を抑制することで、中性化や塩害などの劣化を抑制するポリマーセメント系表面被覆工法である。従来は表面被覆工事に比べ、工期短縮によるコスト削減が可能である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=TH-190006%20
28	無繊維透明樹脂型コンクリート表面保護・はく落防止工法	CG-190009	A	コンクリートの表面保護・はく落防止として、繊維シート工法が従来は使用されてきたが、本工法は透明度の高い成分高強度ウレタン樹脂で構成された工法で、施工後の劣化状況の見え易い。2工程、攪拌作業を不要にすることで、工期短縮、人員削減を可能としました。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-190009%20
29	ダイナミックレジン クリアタフレジン工法	KT-190046	A	本技術は特殊透明樹脂と特殊繊維シートの組み合わせにより、コンクリート片のはく落を防止する技術であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、施工後下地の劣化状況を目視により確認ができるため、点検及び維持管理が容易となる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190046%20

表面被覆工 九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

工法比較対象技術
 新規対象技術(調査中)
 削除技術

令和4年9月現在

※「活用状況(本省)」欄にNETIS掲載期間内の大まかな活用件数を記す。☆=500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上

(注)NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理番号	技術名	NETIS番号	A V G	アブストラクト	区分	分類1 Lv.1	分類1 Lv.2	分類1 Lv.3	分類1 Lv.4	技術の位置づけ	活用 効果 評価	活用 状況 (本省)	掲載期間 終了技術 (終了時期)	生産供給体制(機械保有台数等)	備考	NETIS HP リンク先(注)
30	トンネル小片はく落対策工「FF-TOC工法」	KT-190047	A	本技術は、高伸度型シートとウレタン樹脂を用いたトンネル小片はく落対策工法で、従来は、はつり落とし工や断面修復工等の補修工法で対応していた。本技術の活用により、はく落魂への追従性が高く、透明樹脂により変状確認がし易いため、安全性および施工性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190047%20
31	ライフテックス水性はく落対策工法	KT-190117	A	本技術は、全工程を非危険物で構成した水性はく落対策工法で、従来は危険物を使用したはく落対策工法で対応していた。本技術の活用により施工時の火災への安全性が向上し、作業員の人体への安全性、周囲環境への負荷を低減できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	断面修復工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190117%20
32	補強型コンクリートはく落防止工法	QS-200020	A	本技術は、表面保護工(コンクリート)に関する技術である。ポリイソシアネート化合物と、活性水素を持つアミン化合物をスプレーガン内で混合させ、化学反応によりポリウレタン樹脂を生成し、コンクリート表面に強靱な被膜を形成し、長寿命化を実現する工法である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-200020%20
33	コンクリート保護シート「KYÖZIN」	KT-200107	A	本技術は、コンクリート構造物の劣化を防止する高耐久性塗料をシート化したコンクリート保護シートで、従来はコンクリート保護用の表面被覆塗料で対応していた。本技術の活用により、構造物の表面に保護シートを貼るだけの施工となるため、施工性の向上が図れる。	製品	道路維持修繕工	道路付属物のコンクリート面塗装工									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200107%20
34	コンクリートプロテクト工法	KK-200050	A	本技術は、コンクリート表面にポリウレタン樹脂を塗布し耐久性・防水性・耐摩耗性を向上させる工法技術であり、従来はエポキシ樹脂とガラスクロスを用いた保護工法(手塗り工法)であった。本技術の活用により経済性、品質、施工性向上、周辺環境影響抑制、工期短縮が期待できる。	工法	道路維持修繕工	道路付属物のコンクリート面塗装工									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-200050%20
35	ボンドVMクリア工法	KT-210065	A	本技術は、強靱で耐候性に優れた透明なウレアウレタン樹脂を用いたコンクリート片剥落防止工法で、従来はビニロンネットと不透明な樹脂で対応していた。本技術の活用により、下地の視認、工期短縮が可能となり、安全性、経済性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210065%20
36	下地視認可能型省工程剥落防止工法 ダイナミックレジックリアタフレーションイック	KT-210087	A	本技術は特殊透明樹脂によりコンクリート片のはく落を防止する技術であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、施工後に下地の劣化状況を視認確認できるため、点検及び維持管理が容易となり、また工程も短縮されているため、経済性も向上する。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	その他								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210087%20
37	ポリウレタン樹脂を用いたコンクリート構造物の機能保持・向上技術「タフネスコート工法」	QS-210065	A	本技術は表面保護工に関する技術である。タフネスコートをコンクリート構造物表面に吹き付けることにより、剥落防止、貯水性確保、耐久性及び耐衝撃性向上といった機能をもたらすことができる。本技術の活用により、維持管理コストの低減並びに長寿命化を図ることができる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-210065%20
38	コンクリート構造物補修材料EXGリアベアリリース	KT-220034	A	本技術は、補修部分が湿潤状態でも施工が可能な水性エポキシ、水性アクリル製の補修材で、従来は表面被覆工(コンクリート保護塗装CC-B)で対応していた。本技術の活用により補修部分は、湿潤面での乾燥、塩害面での塩分除去洗浄が不要となる為、工程が短縮する。	材料	コンクリート工	その他									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220034%20
39	コンクリート打放し用の仕上げ材「シエルトクリヤ」	KT-220060	A	本技術は、コンクリート構造物の表面を水分や塩分等から保護する水性のクリヤ塗料で、従来は、シラン系表面含浸材で対応していた。本技術の活用により、コンクリートの中性化および塩分の浸透を抑制する効果が高く、低VOC材料であるため、品質および安全性の向上が図れる。	材料	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220060%20
40	シリコン樹脂を用いた「バックファーコート」工法	KT-220094	A	本技術は、鋼橋やコンクリート構造物の防食および表面保護を行うシリコン樹脂のコーティング工法で、従来は、塗替塗装(C-5系(重防食塗装))で対応していた。本技術の活用により、3層の塗膜層でも40年以上の長期耐久性が確保できるため、品質および経済性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	その他								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220094%20